

祝辞

2013年9月18日

於京都大学基礎物理学研究所パナソニック国際交流ホール
日本学術会議会長 大西隆

京都大学基礎物理学研究所の創設 60 周年に当たり、日本学術会議を代表して、一言お祝いの言葉を申し上げます。改めて申し上げるまでもなく、当研究所は、湯川秀樹先生のノーベル物理学賞受賞を記念するように、我が国初の国立大学共同利用研究所として設立されました。その後、広島大学の理論物理学研究所との統合を経て、現在では、文部科学大臣認定による全国共同利用・共同研究拠点となっています。この間一貫して、我が国理論物理学の中心に位置し続け、内外から高い評価を得てきました。2008年には、今日ご講演された益川敏英元所長と当時国際諮問委員でお務めになっていた南部陽一郎先生がノーベル物理学賞を受賞され、国際的にもその知名度を一層高いものにしたことは記憶に新しいところです。基礎物理学研究所のご関係の皆さんによる長年にわたる研究への献身と、若手研究者の育成や理論物理学の啓蒙における努力に改めて敬意を表します。

湯川先生のご受賞は 1949 年であり、奇しくも日本学術会議が発足した年でもありました。日本中の科学者と同様に、日本学術会議も、立ち上がりの時期に、日本人初のノーベル賞受賞に大いに励まされ、その活動を活発なものとしてきたといえます。

我が国の国是を表して科学技術立国という言葉がよく使われるように、科学、そしてそれを応用した技術に関わる研究蓄積を抜きに、今日の経済的発展や社会生活の充実を語ることはできません。このことは過去だけではなく、将来においても変わらないといえるでしょう。その観点から、日本学術会議は、科学技術を支える物理学をはじめとする基礎的な科学研究の重要性、及びそのために適切な資源配分がなされることの必要性をこれまでも主張してきましたし、今後も訴えていく所存です。幸い、こうした観点は、我が国の国民や歴代政府においても概ね共有されてきたといえます。これも基礎物理学研究所をはじめとする研究機関の皆さんの長年の努力の賜物です。

近年では、特に、科学技術を活用したイノベーションに関心が集まっています。科学技術の適切な発展により、経済発展と地球環境の持続性を両立させる方法、世界的な貧富の差を縮減する方法、紛争の平和的な解決を導く方法、さらに自然災害から人々の生命財産を守る方法など、人類の共通の課題解決に貢献する革新的成果がもたらされることに期待が寄せられています。もちろん、これらはどれも大きな課題であり、簡単に達成できるものではありません。それだけに、いわば自らの研究の直接的な成果を通じて貢献するべきより大きな目標として、我が国の科学者にとってはやりがいのあるテーマ群ではないかと考えます。その意味で、60 周年を通過点にして、京都大学基礎物理学研究所が今後ますます成果を上げて、我が国及び世界の諸課題解決に基礎的な観点から貢献されることを祈念して、お祝いの言葉といたします。